

教育と文化

みんなで
考えよう
人権・同和問題
No. 242

このコーナーは、隔月のシリーズで掲載しています。これを手がかりに、家庭で人権・同和問題について話し合ってみましょう。

へんな日本語みつけた

普段、何気なく使っている言葉に矛盾を感じることはありません。例えば『差別化を図る』もその一つです。『他社とは提供するサービスで差別化を図る』など、違いを強調する際に使われます。でも、どうして差別化なのでしょう。差別することを勧めているように聞こえます。

子どもたちは学校で、差別の意味を『人をいじめること』『人をばかにすること』『人を仲間はずしにすること』と学んでいます。そんな子どもたちに『差別化を図る』という言葉の意味を聞かれたとき、私たちは答えることができません。差別の本質を理解している子どもたちに、ホンネとタテマエを教えることになりそうで心配になります。

さて、文化とは、世代を通じて伝えられていく社会の風習や価値観などの、市民意識

の総称のことです。この視点で考えると、差別は『負の文化』と言わざるを得ません。これに対して言葉は、人の心をつなぐ『豊かな文化』であり、差別をなくすための漢方薬になるはずなのです。そうであるためには、差別の定義は明確でなければいけません。矛盾してはいけません。

昔から使われている言葉の中にも矛盾は潜んでいます。子どもが目線で矛盾に気づき、自分の言葉で考え、子どもに説明できないことを見直す姿勢をとることが、『人権のまちづくり』につながります。

『差別化を図る』より『自分らしさを表現する』の方が、分かりやすいと思いませんか。世界で最も美しい言葉と言われる日本語を、もっと素敵に使っていききたいものです。

郷土の文化財

伊万里の城館跡シリーズ⑬

● 問合先 生涯学習課文化財係 ☎ 3186

木須城跡

木須城跡は牧島地区の木須町字竜王岳に所在する中世の山城跡で、城古岳から南西に延びる丘陵上に立地しています。

遺構が良好に残されているのは、南側の丘陵頂部の曲輪群(A)と西側の曲輪群(B)のみで、そのほかの遺構は植林や耕地などにより、すでに失われています。曲輪群(A)の最上段には『八大龍王』の祠が安置されています。曲輪群(B)の東辺には、尾根との連絡を切断する堀切が残されています。この堀切の底から土塁の頂部までは約5分の落差があり、曲輪群(B)は防衛機能を強く意識していることが伺えます。

木須城の城主については、1384年(永徳4年)の『下松浦住人一揆契諾状』に

ある『きす因幡守壹』であるとも伝えられています。この人物が城主であったことを明確に示す史料は残されていません。

木須城のうち、見学に適しているのは曲輪群(B)で、隣接する市道からアクセスできます。



↑木須城跡周辺地図